

● 2026年1月 作成

# 東アジア共通の社会課題から考える 社会の構造と多様な関わり方

ー 大学生向け実践型ワークショップ企画案 ー

- 実施日：2026年2月25日
- 対象：社会課題解決に関心のある大学生/大学院生/博士課程生（U30）
- 規模：約60-100名
- 形式：講義＋グループワーク
- 主催：The Peace Front

## 企画開催の意図

01

### 目的

社会課題を構造から捉え、多様な関わり方を理解し、学生自身が「自分の立ち位置」を考える機会を提供する。

---

02

### 特徴

- ・ 東アジア共通の社会課題
  - ・ 行政・NPO・研究・企業の比較理解
  - ・ 特定の進路を推奨しない設計
- 

03

### 形式

- ・ 時間：4時間
- ・ 内容：講義＋グループワーク
- ・ 人数：約60～100名

## 企画背景

## 課題

- ✓ 社会課題への関心は高いが、「理解」や「意見表明」で止まりやすい
- ✓ 探究・PBLの機会は増えているが、実社会との接続が弱いケースも多い
- ✓ キャリア・進路の選択肢として社会課題への関わり方が見えづらい

## 本企画の目的

- ✓ 社会課題を「構造」から捉える力を養う
- ✓ 課題解決に関わる多様な立場（セクター）を理解する
- ✓ 学生自身が「自分はどの立場で社会に関わるか」を考える機会を提供する

※ 特定の進路・起業を推奨するものではありません

## 企画タイムテーブル



## ■内容

- ・東アジアに共通する社会課題（地方衰退・高齢化・ケア・環境）
- ・国が違っても起きている**共通構造**。
- ・「課題＝誰かの努力不足」ではなく**構造の問題**であることを示す。

## ■目的

表層理解、受け身のインプットで終わらせない。

## ■内容

- ・テーマ別（**地方／高齢者／福祉／環境**）グループを作成し、各テーマの整理（ex.）表に見える問題背景構造（制度・経済・文化）東アジアでの共通点/差異等

## ■アウトプット

課題構造マップ

## ■内容

行政/NPO/民間企業/研究、それぞれの特徴のインプット

- 伝えるメッセージ  
社会課題は、どれか1つのセクターだけでは解けない。だから、**自分がどこで関わるかを選ぶことが大事。**

## ■内容

同じ社会課題を、各セクターで解くなら何ができるか整理

- アウトプット  
セクター別アプローチ表

## ■問い

**自分ならどの立場で関わりたいか？**その理由は？

※ 正解・評価なし

## ■目的

他者の選択から学ぶ多様性を肯定する

## ■形式

- ・各テーマ2～3チーム。発表内容は、扱った社会課題/選んだセクター/その理由

## 企画の特徴

### POINT 01

構造理解を  
重視

個人の努力不足に帰結させない。  
制度・経済・文化・人口動態など、  
複合的な要因として整理。「なぜ起  
き続けているのか」を考える設計。

→ 社会科学的思考のトレーニング

### POINT 02

4つの  
セクター理解

- ・ 行政（政策・制度・スケール）
- ・ NPO／市民セクター（現場）
- ・ 研究／大学（構造化・エビデンス）
- ・ 企業／ビジネス（継続・改善）

→ どれかを正解としない。  
役割と限界を理解する。

### POINT 03

「選ぶ」経験

社会課題に対して、「自分はどの立  
場に関わるか」を学生自身が考え、  
言語化する。押しつけない。評価し  
ない。しかし「考えさせる」。

→ キャリア形成・主体性醸成に。

## 学生の学習成果（アウトカム）

Point 01

社会課題を構造的に捉える視点

---

Point 02

多様な解決アプローチの理解

---

Point 03

自分の価値観・関心の言語化

---

Point 04

社会との関わり方を考える思考軸

## まとめ

社会課題を「知る」から「考え、選ぶ」へ

起業・研究・行政・NPO

すべてにつながる基礎的思考力を育成

大学と連携した、実践的社会課題教育の場

**社会に主体的に関わる学生を育てたいと考えています。**

## ご協力をお願いしたい事項

- ✓ 学内での学生募集・周知
- ✓ 学部・研究科横断での告知
- ✓ 教職員のオブザーブ参加（任意）